

西尾市事務事業評価シート

事務事業No.	2		事務事業名 (中事業名)	国内交流事業 ()					
予算科目	02	01	03	大事業	05	中事業	00	担当課名	秘書広報広聴課
総合計画施策コード	-			事務開始年度	平成10年度		備考		
根拠法令等	-			作成月			令和元年7月		

事業の概要

●事業の内容【PLAN】

事業の目的 (どうするために)	歴史を縁として友好都市提携を結ぶ2市1町（福井県丹生郡越前町、岐阜県恵那市、山形県米沢市）とのさらなる交流を深めるため。
事業の対象 (誰(何)のために)	各友好都市との交流を進める市民
事業の概要 (具体的に何を)	①各友好都市への相互友好訪問②民間の交流団体である西尾・越前友好の会、西尾・岩村友好の会及び吉良・米沢親善交流会（以下『民間交流団体』とする）主催の各行事への参加及び支援③民間交流団体への負担金支出

●事業費の内訳【DO】

項目	平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(予算)	
事業費①	993,850円	916,948円	1,079,000円	
事業にかかる人工	0.05人	0.05人	0.05人	
事業にかかる人件費②	355,231円	358,370円	361,711円	
総事業費③(①+②)	1,349,081円	1,275,318円	1,440,711円	
総事業費の内訳③	使用料・手数料	0円	0円	0円
	国からの支出金	0円	0円	0円
	県からの支出金	0円	0円	0円
	市費	1,349,081円	1,275,318円	1,440,711円
	その他	0円	0円	0円
H30 総事業費③の対前年度差額	-73,763円	H30 総事業費③の対前年度比率	-5.47%	
事業費の増減理由 (対前年度比10%超の場合記入)				
事業費の中の 主な支出項目 (H30決算額)	項目	概要		金額
	旅費	友好都市等訪問		379,560円
	委託料	越前町交流バスツアー業務委託		199,161円
	負担金	民間交流団体への負担金(100,000円×3団体)		300,000円

●指標の設定【DO】

(事業の実施にあたり、どれだけの成果(成果指標)を得るために、どれだけの活動(活動指標)をするか。)

成果指標	○事業で得たい成果を示すもので、受益者(市民)の観点から捉えた具体的な効果や効用(アウトカム)事業の目的と						
	具体的な指標	友好都市との交流回数(総数)					
	指標の推移	平成29年度	単位	平成30年度	単位	令和元年度	単位
	目標値	49	回	49	回	49	回
	実績値	42	回	43	回	*****	
活動指標	○事業全体の結果を示すもので、具体的な活動量や活動実績(アウトプット)						
	具体的な指標	民間交流団体の会員数(総数)					
	指標の推移	平成29年度	単位	平成30年度	単位	令和元年度	単位
	目標値	900	人	900	人	900	人
	実績値④	904	人	843	人	*****	
活動一単位当たりのコスト(③÷④)		平成29年度	平成30年度		令和元年度		
		1,492円	1,513円		*****		

●担い手の点検と事業の終期【DO】

事業の委託状況	一部委託している	委託の内容	越前町交流バスツアー事業
事業の終了時期	未定	事業の終了時期が未定の場合、事業の抜本的な見直し時期	令和2年度
事業の終了時期が未定の場合の理由	友好都市提携を結ぶ限り、相互交流を続ける必要があるため。		

評 価

●個別評価【CHECK】 ◎:適正 ○:概ね適正 △:適正ではない -:いずれにも該当しない

評価項目	評価項目		評価	評価項目		評価
	妥当性	有効性		効率性	公平性	
妥当性	市が関与することが適切か(委託・民営化は不可能)		○	効率性	単位コストは、前年を下回っているか	○
	国・県・市・民間との役割は適切か		○		事業実績や目的に対して費用がかかりすぎているか	○
	変化する社会情勢の中で、事業の意義は失われていないか		○		委託等、手段を変更してもコスト削減は期待できないか	◎
	事業に対する市民ニーズを把握しているか		△		事務の手段を工夫しても業務時間は短縮できないか	○
有効性	事業の目的は達成できているか		○	公平性	受益者に偏りはないか	△
	事務を継続することで、成果の向上が期待できるか		◎		受益者負担を求めている、また、求めている状況は適切か	○
	事務成果が上位施策の目標達成に貢献しているか		○		受益者負担の割合は適切か	○
	他市町村と比べて上位に位置しているか		○		サービスの提供方法に公平性を欠いていないか	△
評価の総合的なコメント	行政主導の交流活動では、市民ニーズに対して即時に柔軟な対応をすることが困難な場合がある。また、行政の支援が民間交流団体による活動に対するものに限定されている。					
事業の方向性	(評価)	2 今後は、内容を見直して事業を拡大する				
	(理由)	自治体間交流を積極的に推進することにより、他自治体から見た西尾市の魅力を再発見・再確認し、郷土への愛着心を育むとともに、豊かなまちづくりへの意識の醸成が期待できる。				
民間委託又は市民協働拡大の方向性	行政主導による取組ではなく、市民による自発的な交流活動を支援する。また、西尾市観光協会と連携を図り、より効果的な取組を進める。					
事業全体の課題	民間交流団体を主体とする活動を促進・発展させ、弾力的かつ持続的な交流を目指すためにも、多くの市民が参加し、相互交流の魅力を実感できる機械を提供する必要がある。					

●近隣の状況【CHECK】

同類事業の近隣市の実施状況	交流する自治体数 A市:5 B市:2 C市:1 D市:0 F市:0 G市:1 H市:1
---------------	---

●参考意見等【CHECK】

市民サービス向上に向けた意見等	友好都市提携をしている自治体を良く知らない市民も多いので、広報等で特集を組んでみてはいかがでしょうか。(H30.2他課職員の意見)
-----------------	---

●改善案【ACTION】

今後の改善策	R1.12.13に吉良・米沢親善交流会10周年記念式典の開催に合わせて、広報で特集を予定する。
--------	---

●企画政策課の評価

企画政策課の意見	事業内容の妥当性は定期的に確認しながら、市民に対し、友好都市としての認知度向上や事業内容の周知を図ってください。
----------	--

西尾市事務事業評価シート

事務事業No.	3		事務事業名 (中事業名)	広報にしお発行事業 ()					
予算科目	02	01	04	大事業	02	中事業	00	担当課名	秘書広報広聴課
総合計画施策コード	621			事務開始年度	不明			備考	
根拠法令等	-						作成月	令和元年7月	

事業の概要

●事業の内容【PLAN】

事業の目的 (どうするために)	市政に関する必要な事項を市民に周知するとともに、市民が市政に対して、より正確な判断や理解、協力が得られるように広報紙を発行する。
事業の対象 (誰(何)のために)	市民及び市内法人
事業の概要 (具体的に何を)	広報にしおを毎月2回(1日号、16日号)発行する。

●事業費の内訳【DO】

項目	平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(予算)	
事業費①	41,564,929円	41,475,120円	50,179,000円	
事業にかかる人工	4.50人	4.50人	4.50人	
事業にかかる人件費②	31,970,754円	32,253,336円	32,554,012円	
総事業費③(①+②)	73,535,683円	73,728,456円	82,733,012円	
総事業費の内訳③の	使用料・手数料	0円	0円	0円
	国からの支出金	0円	0円	0円
	県からの支出金	0円	0円	0円
	市費	73,535,683円	73,728,456円	82,733,012円
	その他	0円	0円	0円
H30 総事業費③の対前年度差額	192,773円	H30 総事業費③の対前年度比率	0.26%	
事業費の増減理由 (対前年度比10%超の場合記入)				
事業費の中の 主な支出項目 (H30決算額)	項目	概要		金額
	印刷製本費	広報紙発行に伴う印刷製本費		39,843,161円

●指標の設定【DO】

(事業の実施にあたり、どれだけの成果(成果指標)を得るために、どれだけの活動(活動指標)をするか。)

成果指標	○事業で得たい成果を示すもので、受益者(市民)の観点から捉えた具体的な効果や効用(アウトカム)事業の目的と						
	具体的な指標	広報にしおの満足度(実績値は隔年で行う世論調査実績数値)					
	指標の推移	平成29年度	単位	平成30年度	単位	令和元年度	単位
	目標値	50	%	50	%	55	%
	実績値	50	%	44	%	*****	
活動指標	○事業全体の結果を示すもので、具体的な活動量や活動実績(アウトプット)						
	具体的な指標	広報誌発行部数					
	指標の推移	平成29年度	単位	平成30年度	単位	令和元年度	単位
	目標値	1,344,000	部	1,360,800	部	1,372,800	部
	実績値④	1,342,650	部	1,356,250	部	*****	
活動一単位当たりのコスト(③÷④)		平成29年度		平成30年度		令和元年度	
		55円		54円		*****	

●担い手の点検と事業の終期【DO】

事業の委託状況	一部委託している	委託の内容	広報紙のレイアウト、イラスト等の作成
事業の終了時期	-	事業の終了時期が未定の場合、事業の抜本的な見直し時期	-
事業の終了時期が未定の場合の理由	継続的に発行及を行う必要があるため。		

評 価

●個別評価【CHECK】 ◎:適正 ○:概ね適正 △:適正ではない -:いずれにも該当しない

評価項目	評価項目		評価	評価項目		評価
	妥当性	有効性		効率性	公平性	
妥当性	市が関与することが適切か(委託・民営化は不可能)		○	効率性	単位コストは、前年を下回っているか	△
	国・県・市・民間との役割は適切か		—		事業実績や目的に対して費用がかかりすぎているか	○
	変化する社会情勢の中で、事業の意義は失われていないか		○		委託等、手段を変更してもコスト削減は期待できないか	○
	事業に対する市民ニーズを把握しているか		○		事務の手段を工夫しても業務時間は短縮できないか	○
有効性	事業の目的は達成できているか		○	公平性	受益者に偏りはないか	◎
	事務を継続することで、成果の向上が期待できるか		○		受益者負担を求めている、また、求めている状況は適切か	◎
	事務成果が上位施策の目標達成に貢献しているか		○		受益者負担の割合は適切か	—
	他市町村と比べて上位に位置しているか		○		サービスの提供方法に公平性を欠いていないか	—
評価の総合的なコメント	本年度は、来年度の広報発行回数を見直しによるデザインリニューアルなどを行うため、単位コストが増加している。					
事業の方向性	(評価)	3 今後は、内容を見直して事業を縮小する				
	(理由)	町内会による配布の負担減や、情報の提供(取得)手段の多様化から広報紙の意義を見直す必要があるため。				
民間委託又は市民協働拡大の方向性	従来の紙媒体だけでなく、フェイスブックなどのSNSを活用し、市民との協働による情報提供なども活用していく。					
事業全体の課題	広報紙の内容を充実し、高い質を保つためには、取材などを始めレイアウトなどを行う人員が必要。また、印刷に伴う紙などの単価があがっており、いかにしてコストを抑えることができるかが課題となっている。					

●近隣の状況【CHECK】

同類事業の近隣市の実施状況	近隣市も同様に発行(月2回)している。
---------------	---------------------

●参考意見等【CHECK】

市民サービス向上に向けた意見等	発行回数を見直し。電子化。多言語での情報提供。
-----------------	-------------------------

●改善案【ACTION】

今後の改善策	より読みやすく、手にとってもらえる広報紙となるよう、発行回数を見直しやユニバーサルデザイン化、フルカラー化とともに、読み上げ機能や多言語対応などの機能を取り入れていく。
--------	--

●企画政策課の評価

企画政策課の意見	発行回数を見直しによってコストの削減が見込まれますが、幅広い世代の多くの市民から見やすく興味を持ってもらえるような内容となるよう努めてください。
----------	--